

このレターは、当協会にご縁を頂いている経営者の皆様にお届けしています。
答えのない21世紀で奮闘されている経営者の皆様へ

Vol. 93
2024.12.01

U 協 近 畿 通 心

～ U 協 を 使 い 倒 し ま し ょ う ～

公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会
近畿事業推進部

【はじめに】

近畿事業推進部の川畑です。早いものでもう12月ですね。いやほんと1年は早い。年輪を重ねると余計にそう感じますね。元旦に発生した能登半島地震、羽田の航空機衝突事故、日銀マイナス金利政策解除、34年ぶりの160円台の円安ドル高、日経平均42,426円市場最高値更新、4,400円超市場最大値下がり、最低賃金1,054円過去最大50円引上、75万人余の過去最少出生数、20年ぶりの新紙幣発行、石破内閣組閣後の衆議院選挙自民党大敗・・・世界ではロシアのウクライナ進攻3年目、レバノン軍事侵攻、右傾化、アメリカ大統領選挙ドナルド・トランプ氏勝利など、経済に直結する大きな出来事がありました。

今年もほんとうに激動の1年でしたね。このあたりは、来年1月14日(水)の大前さんに世界の潮流2024を学ぼうにて知識のブラッシュアップをしてください。いま、その準備と集客を頑張っています。目標参加者1000名です。

先月15日(金)、電話対応コンクール全国大会 in 高知が開催されました。

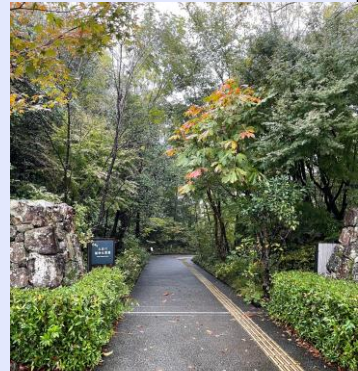
全国の予選を勝ち抜いてこられた47都道府県代表選手の素敵な応対に出会えました。

近畿は7名の選手が健闘され、内5選手が入賞される大活躍でした。入賞おめでとうございます。担当支部の事務局長も喜んでいました。一大イベントですから力が入っていましたものね。(^^)

翌日、せっかくなので牧野富太郎博士の植物園に行きました。生憎の雨模様でしたが、よく設計された凄く素敵な植物園でした。スエコザサやバイカオウレンにも会えました。この時期でも園内にはたくさんの花が咲いていました。よく手入れしてあり、桜も咲いていて愉しめました。博士とは高校生の頃、家にあった古い古い植物図鑑で出会いました。植物が繊細に描かれているのに惹かれたことを覚えています。近くにあったら、毎週でも行ってみたいところです。博士の希望で、高知市五台山にあります。高知に行かれた際はお勧めです。植物園の次は、桂浜の坂本龍馬さんに会いに行きました。こちら展示物がたくさんで愉しめました。好きな坂本龍馬さんに出会えてよかったです。

鹿児島伊佐の畑は、秋がとても短く、暑いので種蒔きも遅くなりましたが、白菜、水菜、大根、ジャガイモなどが大きくなってきています。帰って収穫するのが楽しみです。

来月再来月の全国参加型ICTオンラインセミナーや講座の準備で忙しいのですが、今年も最後まで頑張ります。今月もU協近畿通心、愉しんでいただけますと嬉しいです。



素敵な入口でしょう。牧野富太郎博士の植物園です。入口からもう富太郎ワールドで大興奮でした。

【ICT用語豆知識 「XR(クロスリアリティ)」ってご存じでしょうか】

「XR」とはExtended Reality(エクステンデッドリアリティ)の略称で、現実世界と仮想世界を融合させて新たな空間を生み出す最先端技術の包括的な表現です。

「XR」の中には、VR(Virtual Reality 仮想現実)、AR(Augmented Reality 拡張現実)、MR(Mixed Reality 複合現実)が含まれています。現在ではVRゴーグルのようなXRデバイスがたくさん販売されており、専用のXRデバイスを利用することで「VR」「AR」「MR」を体験することができます。

VR(仮想現実)はCGで作られた世界にあたかも入り込んだような疑似体験ができる技術、AR(拡張現実)はCGで作られたものを現実世界の映像に重ねる技術、MR(複合現実)はCGで作られたものを現実世界の映像と融合する技術です。

「XR」はゲームやエンターテインメント分野を中心に急速に発展していますが、教育分野では、「XR」を活用した学習教材が開発されており、より効果的な学習を提供することが期待されています。

具体的なものでいうと、理科の授業の時に実際には難しい危険な薬品を混ぜ合わせるような実験も仮想現実にてシミュレーションができることで、教科書を読む以上の実験結果を体験することが可能になり、より効率的に学習できます。また、医療分野では、手術シミュレーションやリハビリテーションなど、様々な分野で「XR」が活用されています。

「XR」にはXRでデバイスの性能向上と回線速度の向上(高速回線 仮想と現実の時間差を極力生じさせない)が必要です。「XR」、これから注目の技術ですね。

前回は、第122回「名前を大切にしたい」(2024.07.16)をご紹介しました。

今回は、第123回「**変わってきた話し言葉**」(2024.08.15)をご紹介します。

昭和、平成、令和の三つの時代は、千数百年の日本の歴史の中では、最もテンポの速い激動の時代だと思えます。戦争、敗戦、急ピッチで進んだその後の復興、近代化、そして未曾有の速さで進むIT化とデジタル社会の到来です。その流れに翻弄(ほんろう)されつつ、私たちは令和の今を生きています。それともう一つの大きな問題があります。それは時代に攪拌(かくはん)されてきた「話し言葉」の変化です。今回はこの言葉の変化について考えます。

行き交う言葉はみな言葉

私たちはとかく、自分が身につけている言葉は常に正しく、それ以外の言葉は誤りだと考えがちです。しかしそう考えることはかなり危険なことです。

言葉を評価する際の判断の基本は、「**みんなが使っている言葉は正しい**」ということです。言葉は、それぞれの時代それぞれの社会で、つねに形を変えてゆくものです。行き交う言葉は、すべてが言葉なのです。慶應義塾大学の名誉教授であった故・岩松 研吉郎さんは「**話し言葉は正邪、善悪で決めるものではない。好きか嫌いかだ**」という言葉を残しています。

通じない日本語が増えた

とは言いましても、千年の歴史と文化の中で生まれ、コミュニケーション社会を支えてきた「日本語話し言葉」は、ここにきて、怒涛のように押し寄せるIT語を筆頭とした「カタカナ語」の波の中で、蝕まれ続けています。そしてさらに危険なことがもう一つあります。生成AIの恐るべき台頭を人間社会は唯々諾々(いいたくたく※)として歓迎していることです。

カタカナ語、専門語、省略語、アニメ語、多様な造語の氾濫の中で、日本語が段々通じ難しくなっています。言葉の多様性は、自由で活力ある言葉の進化と捉える見方もあります。

しかしそれは、根幹となる日本語がしっかり構築され、伝える力を持っている話です。

変わってきた日本語話し言葉

私の若い頃にはなかった言葉、使い方が変わった言葉、そして皆さんも気になさっているであろう変化した言葉の例をいくつか取り上げます。第一に私が最も気になるのは、**語尾伸びという話し癖**です。以前には、それは若者方言の特徴だと思っていました。しかし、今や若年層や一般人に限らず、著名人、知識人、社会的地位もある年配層までが、公の場でも何ら恥じらう様子もなく語尾を伸ばして話しているのです。これはもう絶望的な世界です。

次に特徴的なのは、見れる、食べれる、来れる、などの「ら抜き言葉」の定着です。ら抜きは、尊敬や受け身でも使いますが、圧倒的に多いのは可能を表す時のら抜きです。これらはもう見られる、食べられる、来られるという本来の言い方には戻らないでしょう。

休ませせて、書かさせて、脱がさせてなどの「**さ入れ言葉**」。それに、読めれる、飲めれる、行けれる、などの「**れ足す言葉**」も、同じ運命をたどりつつあります。

違くない、好きくないも若年層に定着しつつあります。違う、好くなどの動詞を形容詞の活用否定形「～くない」にあてはめて、違くない、好きくないになったというのです。

形容詞「すごい」は名詞につく時には、すごい車だ、すごいバッテリーだ、のように「すごい」が良いのですが、形容詞につく時には「すごく美味しい」となります。ところが、最近は「すごい美味しい」という人が多くなりました。

言葉の変化に対応する

日本語には、実に多様な数詞がありますが、それが急速に姿を消しました。年齢や学年を比べるのにも、若い人は「一歳上、二年下」と言わずに「一コ上、二コ下」というのです。

本来「コ(個)」というのは形のあるものを数える時に使う数詞ですから、年や学年は該当しません。若い親世代や先生までが数詞を忘れてしまったのでしょうか。

最近、自分ごと、他人ごとという言葉をよく聞きます。かつては、他人ごとと書いて「ひとごと」と読む言葉しかありませんでした。それが「他人ごと(たにんごと)」という言葉を生み、さらには「自分ごと(じぶんごと)」という新しい意味を持った言葉を生み出したのです。

言葉は本来規制するものではなく自由であるべきものです。しかし、過剰な敬意が生み出した「お名前さま」、さらには「お電話番号さま」となりますと、いい加減にしたらと言いたくもなりません。

美しい日本語を守るためには、野放図に増殖するカタカナ語や省略語にブレーキをかけ、節度を持たせるにはどうすれば良いでしょうか。これからの難題です。

※ 唯々諾々 はいはい、と言って何でも承諾すること。おもねる様子。

【ユーザ協会の得意技！ こういう蓄積・ノウハウがあります。

「物流業界におけるAI活用事例(1/2)」

AIと聞くと、「大手じゃないと取り組めない」「自社にはIT人材がないので扱えない」「AI導入にはお金がかかる」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。数年前までは、AIの導入といえば個別開発案件がほとんどで、1,000万円を超えるような規模の投資が必要でした。

しかし、近年ではAIもパッケージ化され、クラウドで月数千円～数万円と安価で利用できるものも増えてきました。中小規模の物流会社でも活用できる事例は数多くあり、生産性向上にAIが役立っています。

AI活用で期待される効果

昨今、ChatGPTをはじめとした生成AIへの注目が高まっていますが、物流業界においてもAIの導入が進んでおり、配送ルート最適化、在庫管理の精度向上、物量予測の改善など、さまざまな分野で活用されています。

AIは大量のデータを解析し最適な判断を下すため、人間の作業を補助または代替することができます。例えば、交通状況や納品先などのデータをAIがリアルタイムで解析し、最短かつ最も効率的なルートを導き出すことが可能です。

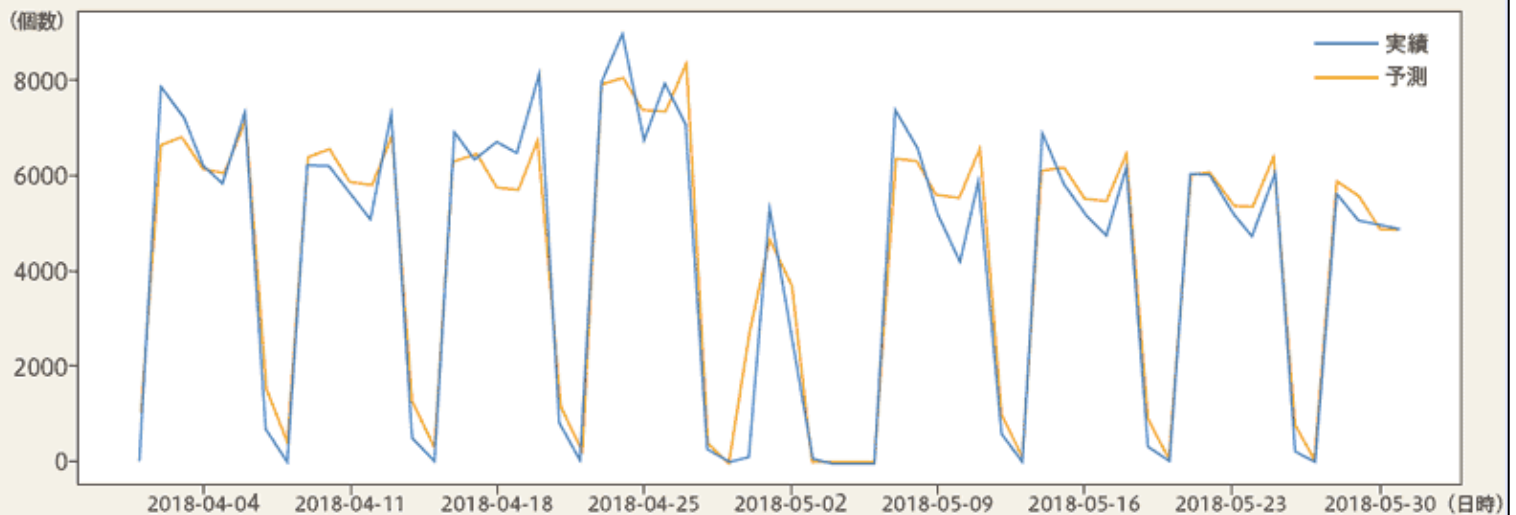
このように、人が行うと時間がかかったり、正確な判断ができなかったりすることに対し、AIを活用することで、判断や作業のスピードと精度が向上し、業務の効率化を図ることができます。そこで、今回のコラムでは実際にすでに活用されている物流AIの事例をご紹介します。

物量の予測に合わせたシフト管理で労働時間を削減

過去の実績データから、日々の物量を予測するAIの活用が進んでいます。例えば、過去2年分の日別の販売データや天候、気温情報などを分析し、将来的な需要を平均誤差 $\pm 10\%$ 以内で予測するようなものがあります(図参照)。この技術を活用すると、企業は需要波動(需要の増減)に迅速に対応でき、無駄な在庫を持つことなく効率的な生産・在庫管理が可能となります。

また、出荷量が多いと予測される日は、あらかじめ協力会社に声をかけることで車両の手配をスムーズに行うことができます。反対に物量が少ない日は、ドライバーのシフトを調整することで、積載率を向上させ、無駄な出勤をなくすることができます。

実際に物量予測AIを導入した運送会社では、ドライバーの労働時間を月間15時間ほど削減した例もあります。



出典：船井総研ロジ株式会社作成資料

図：予測の平均誤差が $\pm 10\%$ 以内を誇るAIによる物量予測結果

積載量を可視化し、積載率を向上

車両の積載量を判定するAIも実用化が進んでいます。トラックに積み込まれた荷物をスマホやタブレットで撮影すれば、AIがトラックの荷台容積に対し、現在何%積み込まれているのかを即座に判定します。積載率を正確に把握することで、スペースに余裕のあるトラックにほかの荷物を積み合わせたり、車両を入れ替えたりして、積載率を向上させることができます。

一般的な物流会社では、配車担当者の経験から、どの荷物をどのトラックに積むのかを決めています。それが本当に効率的な組み合わせなのかは検証できていません。

しかし、AIによってデータを可視化することで、最適な配車が可能になります。

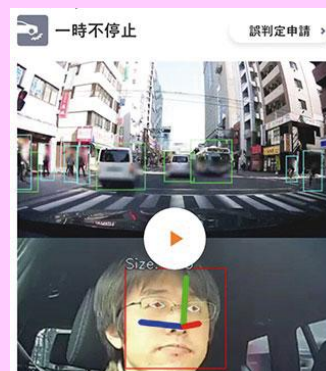
リスク運転を検出し、事故を未然に防ぐ

昨今、ドライブレコーダーの普及率が高まっていますが、最新のものにはAI機能がついたものもあります。AIドライブレコーダーは、外向きと内向き(ドライバー向き)の二つのカメラによって、運転中の映像をリアルタイムで解析し、危険運転やヒヤリハット運転がなかったかを検出します。

例えば、内向きのカメラでドライバーの目線の向きを検知し、運転方向から2秒以上違うところを見ていた場合、AIが脇見運転と判断し、ドライバーに警告を発したり、管理者へ通知が飛ぶようになっています。そのため、運転中にスマホの画面を見ていた瞬間などを捉えることができ、事故を起こす前にドライバーへ警告・指導することができます。

従来のドライブレコーダーは、すべての運転映像を遡ってチェックする必要がありましたし、チェックしたとしてもリスク運転をつい見逃してしまうことがありました。

しかし、AIなら運転状況をすべて把握することができ、検出した映像を元に教育・指導を徹底することができるため、AIドライブレコーダー導入前と比較して事故件数を半減以下にしている会社も珍しくありません。



ドライバーの目線からリスク運転を検知するAIドライブレコーダー

手書き文字の自動データ化で打ち込み作業が激減

物流業界ではアナログなやり取りが多く、出荷指示がいまだにFAXで送られてくることも少なくありません。そのため、事務員が毎日何時間も手打ちで転記作業をしていることがよくあります。

そのような課題を解決するのがOCRです。OCRとはOptical Character Recognition(またはReader)の略で、日本語では光学文字認識と言われ、スキャンした書類などの画像データに含まれる文字を読み取り、テキストデータに変換する技術のことを意味します。

OCR自体は何十年も前からある機能ですが、読み取り精度が低く、今まではあまり有効活用されてきませんでした。

しかし近年、このOCRにもAI機能がついたもの(AI-OCR)が誕生しています。これにより手書きの文字や2行にわたる文章でも、正確に読み取りデータ化することが可能になりました。AIの読み取り精度も使えば使うほど高まり、手書き文字でも96%以上の精度で認識できます。ある物流会社では、受発注の紙帳票をAI-OCRで読み込むようにしてから打ち込み作業が激減し、事務員の労働時間を月間100時間以上も短縮しています。

これまで、物流現場におけるAI事例をご紹介してきましたが、せっかく導入しても使いこなす人がいなければ宝の持ち腐れになってしまいます。AIは傾向やデータを自動で可視化し、方向性を示してくれますが、それを実行するのは最終的には人です。AIツールの選定とともに、社内体制の整備や人材の育成も合わせて実行すると成果につながるでしょう。

【お役立ち情報：11/8(金) 全国参加型ICTセミナーを開催しました。】

11/8(金)全国参加型ICTオンラインセミナー「AIがつなぐ、デジタルコンテンツが導く、働き方改革の将来像」を開催しました。今回は2部構成で、基調講演「NTT版tsuzumi等のAI活用で業務変革と新たな価値創造を」をNTT常務取締役 大西 佐知子氏に、特別講演「超ヒマ社会到来。「働き方」解改革より、「遊び方」改革!ってなあに?」をiU(情報経営イノベーション専門職大学)学長 中村 伊知哉氏に講演していただきました。その中で私の印象に残ったことをお伝えします。参考になれば幸いです。

< 基調講演 > 大西佐知子氏

- 1970年大阪万博パビリオンでコードレスフォン紹介、2025年大阪万博ではIWONを使ってNTTパビリオン会場情報を遠隔でAIによるリアルタイム解析を実施
- AIによる価値効用 ①パーソナライズ ②効率化・最適化 ③可能性、能力の拡張
- 世界で生まれるデータ量 2025年には2018年の約16倍170ゼタバイト(兆の10億倍)に到達
- データセンタの消費電力 2030年には2018年の約18倍2600TWh/年に増加
- AIの進展とともにデータ量は増大 データを伝送する情報通信インフラ データを蓄積・分析するためのDCが必要 また比例して増大する電力消費の低減も必要
- AIを社会インフラとして、サステナブルに価値を拡大していくためには、AI活用による効用と消費電力の低減を両立が重要
- コールセンター×tsuzumi=CX/EX向上に活かしている 業務効率化にも寄与
- 社内利用に社内の知見をいれてカスタマイズ化
- AIにより導かれて選択肢や新たな時間で新しいことを想像し、新たな価値を創造する

< 特別講演 > 中村伊知哉氏

- 高度情報化社会は平和も戦争も助長した
- ネットは為政者にもテロリストにも味方する
- デジタルはメスにもなればドスにもなる ユーザ次第
- 一生学び続ける 歴史の新事実 学校で習ったことが塗り替えられている
- 6万年前に壁画を描いた人たちは映像で考えて映像で表現
- 300年前活版印刷の発明で人は本を読むようになった
- 第4次産業革命(ドイツ)とかSociety5.0(日本)と言っているが実は、人類2.0ではないか (人類の歴史を分ける前期、後期と思っている) P2P → M2M
- 5GがM2Mをつなぐと産業全体に影響を与える
- 教育はAIとデータの世界になっているデジタルが遅れているのは教育、医療、行政
- 教育20兆円、医療30兆円、行政450兆円、都合500兆円のコストがかかっている
- 1%DXしたら5兆円の産業が生まれる
- バーチャル(デジタル) > リアルになっている SNS エンタメ メタバース
- 中央集権から非中央集権に向かうテクノロジー
- オンラインからリアルへのフィードバックがでてきている
- データが爆発する社会をどう制御するかが大きな問題
- ノーベル物理学・化学賞でAI研究が受賞 いずれ医学生理学等もAIが受賞するだろう
- スマホ賢くなった だったらAIを働かせていたらいい 今後AIにとって代わられる
- これから20年で新しい仕事生まれる 自分で創れ
- 日本はデジタル敗戦 DXの遅れは日本の没落に繋がっている
- 文明は都市の歴史 集中と分散 ニューノーマル
- IT革命、デジタル革命、ロボット革命、AI革命が同時に起こっている チャンス
- 成長 < 分配が大事なイシューになる 分配が偏ると暴動が起こる
- 遊びの時間が増えてくる
- AI利用を禁止する大学(東大、慶応等)が多いが、iU大学は生成AIの利用を推奨する
- Re Skillng → Ever Learning
- 世界が一番クリエイティブな国は日本とみているのに、自国は創造的かと聞かれると日本はドイツ、アメリカ、イギリス、フランスよりも低い → もっと自分に自信をもて!

【お役立ち情報：ドイツ人の働き方って参考になります。】

11/8の全国参加型ICTオンラインセミナーを企画しているうちにこの本に出会いました。大前研一LIVEで紹介があったので、私のアンテナにひっかかりました。著者はBBT大学院でMBAを取得されて活躍されている西村栄基さんです。大前研一LIVEではAoba-bbt関係の方が出版された本を結構プレゼンスされています。この本もプレゼントコーナーで知りました。

西村さんは28歳の時ドイツに出張されドイツ人の働き方を見て、愕然とされたそうです。それは、

- ・朝早くに働き始め、夕方には颯爽と仕事を終える
- ・終業間際には一斉にデスクを片づけ始め17時にはオフィスから人が消える
- ・デスク上の上は毎日、新品のように整理整頓されている
- ・年間30日間の有給休暇をフル取得している
- ・2～3週間の長期休暇も当たり前にもかかわらず仕事は回る

と言われていました。そして驚きと同時に悔しい思いも湧き上がってきて「自分は睡眠時間を削って、毎日必死に仕事をこなしている。なぜ、この人たちは無理せず、短い時間で成果を残せるのだろうか？」と考えられたそうです。そこから西村さんのドイツ人の働き方研究が始まったそうです。「**限られた時間で最高の効率を発揮し結果をだす**」という考えが労働生産性の高さに繋がっているのでしょうか。西村さんはこの研究を通じて「**やりたいことは全部やる！**」と人生を歩んでいらっしゃるようです。素敵なお話です。

2023年日本はドイツにGDPが抜かれ世界第4位に転落しました。いったい、ドイツと日本何が違うのか気になっていました。ドイツは企業が解雇した人を国が引き受けて、今必要なスキル付与をして市場に戻す仕組みがあります。これは日本にも必要な仕組みだと考えています。また、中学生くらいの年に自分の道を選択するデュアルシステムがあります。

マイスターもその一つで大学に進学しなくても結構な年収になります。それ以上稼ぎたい人は大学に行って稼ぐ力を身に付けて社会にでていきます。日本も大学に行く人は稼ぐ力をつけて欲しいものです。若い頃は世界を歩いて、いろんな経験をして職につくドイツ人も多いと聞きます。日本も学ぶべきところが多いドイツだと思っていました。実際ドイツではどうなんだろうということでこの本を読んでみました。

ドイツ人の働き方として特徴的なのが、日本人に比べて圧倒的に少ない労働日数・労働時間で成果を出している点です。その労働生産性は日本と比べて実に約1.5倍もあります。この本は、商社駐在員としてドイツ在住17年、欧州向けビジネスに携わること30年の西村さんが、「**無駄なく、無理なく効率的に結果がついてくる**」ドイツ式の働き方を、どんな立場の人でも実践できるように、日常業務からマネジメントまで具体的な仕事術として書かれています。参考になると思ったので今回ご紹介します。

仕事と私生活のバランスを改善したい方、朝型生活への転換を考えている方、効率的な時間管理術を探している方、海外の働き方に関心のある方はよかったです読んでみてください。西村さんは「**限りある人生をより豊かに生きていきたい！**」とこの本を書かれました。

私もそう思います。これも素敵です。なにかヒントになれば幸いです。

<目次>

- 序章 ドイツ企業の1日
- 第1章 抜群の生産性を生むドイツ社会の仕組み
- 第2章 ラクしてるのに成果が出る「ドイツ式働き方」
- 第3章 メンバーの能力を引き出す「ドイツ式マネジメント」
- 第4章 ドイツ式×日本ハイブリッドワークスタイルのススメ



日本の3倍休んで成果は1.5倍の秘密

有給消化率 100% (製造業 大国) (GDPランキング 世界3位)
無駄ゼロで「効率」が上がる。
無理ゼロで「時間」が増える。
自前ビジネスを30年、ドイツで17年、
の経験が活かされる。日本人が学ぶべき「本質」に学ぶための

著者：西村 栄基

<原稿大募集しています！>

あなたの知識や経験等が他の会員さんのお役に立てば、嬉しいですね。いつでも待ってま〜す。写真等も大歓迎です。

送り先：f.kawabata@jtua.or.jp (川畑)までファイル(A4)を送ってください。

【オンライン】2024 DXリテラシー講座 『井村屋グループ(株)におけるDXの取組に関するご紹介』

2024年12月13日(金)13:30 ~ 15:00



「あずきバー」、「肉まん・あんまん」でお馴染みの井村屋グループ(株)は、「おいしい!の笑顔をつくる」の実践に向けて、多様化するニーズに対して顧客志向を徹底しつつ、ロス・ミス・ムダの削減とDXへの取り組みによりコストイノベーションを図っておられます。

具体的には、Zoom、ノーコードツール、生成AIなどのDXツールを活用し、業務の効率化、情報流通の迅速化、ペーパーレス化などにより、ロス・ミス・ムダの削減を事業目標とされており、汎用性の高いシステム・ツールを駆使した事業運営のポイントを中心に、DX推進を担う「デジタル戦略室」の室長から、具体的な効率化事例と、その成果等について共有頂きます。

今回は業種や企業規模に関係なく、自社のDX推進の参考にしていただける内容となりますので、この機会に是非ご参加ください。

貴社のDX推進の参考として、ご活用ください。

① ユーザ協会挨拶【5分】

② 井村屋グループ(株)講演 & 質疑応答【60分】

※企業概要動画等、あり。

〔井村屋グループ(株) 執行役員常務デジタル戦略室長 岡田 孝平 氏〕

- ◆デジタル戦略室の担う役割
- ◆具体的な業務効率化施策の概要とその効果
- ◆今後のDX推進の方向性 ◆質疑応答 等



③ ユーザ協会からのお知らせ【10分】

1

会員特典「生成AIお試し特典」のご案内
～生成AI本格導入に向けたお試しとして～
〔公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会〕

2

今後のICTセミナー・講座の紹介

定員

オンライン:300名

申し込み
方法

12月11日(水)までに 右QRコード または 以下申込サイトからお申込みください。

<https://coubic.com/jtua-kinki/4906412>



参加費

お一人様5,500円(税込) **ユーザ協会会員は“無料”**

聴講方法

「Zoom」にてライブ配信します。視聴URL等詳細は、1週間前、1日前のリマインドメールにてお申込みメールアドレス宛にご案内致します。

〔問い合わせ先〕各支部のホームページをご確認ください。電話 0120-20-6660 最寄りの支部につながります。

ユーザ協会では、ICT活用事例や電話対応教育メニュー等の情報を積極的に発信しております。
本協会の趣旨にご賛同いただき、最新のICT情報等を更にお知りになりたい方は、是非この機会に協会への入会をお願いいたします。
入会には年会費がかかります。年会費の額はユーザ協会各支部までお問い合わせください。

ユーザ協会



絶賛募集中

公益財団法人日本電信電話ユーザ協会

参加費無料

<2025年 新春特別企画>

大前さんに「世界の潮流2024」を学ぼう！

2024年の日本を振り返ってみると、まさに激動の一年でした。

元旦に発生した能登半島地震、羽田の航空機衝突事故、日銀マイナス金利政策解除、34年ぶりの160円台の円安ドル高、日経平均42,426円市場最高値更新、4,400円超過去最大値下がり、最低賃金が1,054円と過去最大50円引上、75万人余の過去最少出生数、20年ぶり新紙幣の発行、石破内閣組閣後衆議院選挙自民党大敗、……



また世界ではロシアのウクライナ進攻3年目、レバノン軍事侵攻、右傾化、アメリカ大統領選挙ドナルド・トランプ氏勝利など、経済に直結する大きな出来事がありました。

第1部では大前さんの「2024年一年間の総括&今後の日本の課題と解決策」を、お馴染み丹羽亮介氏のナビゲーションで今回もお送りいたします。

また、第2部ではドローン×ICT×AIでビジネスに今どんな変化が起こっているのかを(株)NTT e-DroneTechnologyにお話し頂きます。

今後の事業経営のヒントは、このセミナーにあります。お見逃しなく！

募集人数 **1,000名**(先着順)

※お知り合いの方にもぜひご紹介ください。

【開催日時】 2025年1月14日(火) 13:30~16:40(13:10から接続可)

【開催内容】 13:30開演 16:40終了予定

第1部 13:40~ あのマッキンゼーの世界的名コンサルタント大前さんに「世界の潮流2024」(仮)を学ぼう

〔講師：大前研一氏(ビデオ)、丹羽亮介氏(株)マインドシーズSG代表)〕

第2部 16:00~ ドローン×ICT×AIで拓くビジネスの最新動向(仮)

〔講師：(株)NTT e-DroneTechnology〕

【参加費】 無料

【申込方法】 以下URL又はQRコードからお申込みください。

<https://coubic.com/jtua-kinki/4505158>

※ 商工会議所等からのご紹介の方は、該当欄に商工会議所等の名称を必ずご記入ください。

【参加方法】 申込時に視聴登録URLをメールにてお送りいたします。

【主催】 (公財)日本電信電話ユーザ協会

【共催】 東日本電信電話(株) 西日本電信電話(株)

「撮影/国府田 利光氏」



BBT University

ビジネス・ブレイクスルー
大学学長、同大学院学長
大前 研一氏



NTT
e-DroneTechnology

【問い合わせ先】 各支部のホームページをご確認ください。
電話 0120-20-6660 最寄りの支部につながります。

ユーザ協会では、ICT活用事例や電話対応教育メニュー等の情報を積極的に発信しております。

本協会の趣旨にご賛同いただき、最新のICT情報等を更にお知りになりたい方は、是非この機会に協会への入会をお願いいたします。

入会には年会費がかかります。年会費の額はユーザ協会各支部までお問い合わせください。

ユーザ協会



プライバシーポリシー(プライバシーに関する公益財団法人日本電信電話ユーザ協会の確約)

公益財団法人日本電信電話ユーザ協会は、常日頃より関係者の情報を厳正に管理し、プライバシー保護に努めています。ユーザ協会は、関係者様の個人情報は当協会の定款に基づく事業目的以外には、使用致しません。なお、頂いたメールアドレス宛に、今後協会の各種情報を送付させていただきます。